

「復興人材育成教育コース」活動状況 CALENDAR

「復興について学びたい」「自分ができることは何か」「被災地のために…」

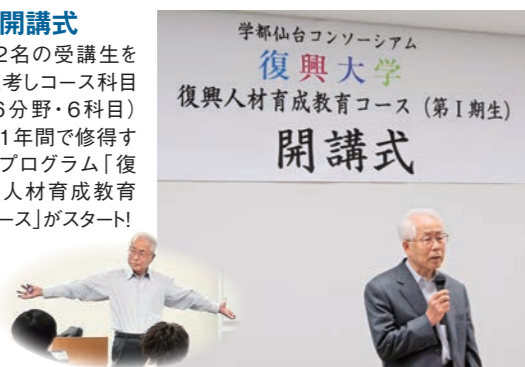
「求ム、復興リーダー2012」をスローガンに日本・世界の被災地で活躍することを目指そう!!

本コースは、地域の復興に関わりつつ学ぶことにより、コース修了かつ大学卒業後に、地域の復興支援、さらにはグローバル化時代における日本社会全体の新生を担うリーダーとして活躍できる人材を育成することを目標としています。

2012
5

◆開講式

42名の受講生を選考しコース科目(6分野・6科目)を1年間で修得するプログラム「復興人材育成教育コース」がスタート!



6

■復興の思想 現場実習

名取市閑上地区の踏査、愛島東部仮設住宅集会所にてボランティア活動

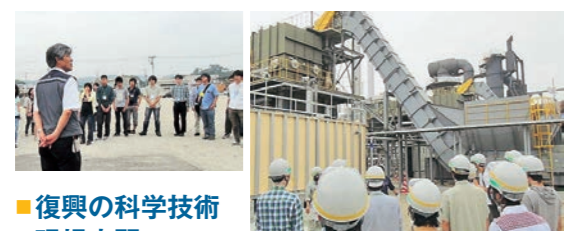


7

8

■復興の科学技術 現場実習

(地域復興支援ワンストップサービス事業と連携)
災害廃棄物処理業務巨理地区名取ブロック(岩沼処理区)・塩釜市団地水産加工業協同組合(塩釜市新浜)を視察研修



■復興のための生活構築学 現場演習

1泊2日エコキャンプみちのく(柴田郡川崎町)
・レクリエーション実習
・調理実習
・応急処置等
・臨床美術等



9

■復興の政治学

グループに分かれ、テーマを設定し、発表&ディスカッション



10

◆後期授業スタート!



■復興の経済学 「新しい経済学」を教示

11



■復興の社会学

ゲストスピーカーを現場から迎えて

12

◆後期授業終了

2013

1

■復興大学 公開講座開催!

2月 9日(土) ①13:00~15:00「復興の政治学」

②15:30~17:30「復興の経済学」

2月16日(土) ③13:00~15:00「復興のための生活構築学」

④15:30~17:30「復興の思想」

2月23日(土) ⑤13:00~15:00「復興の社会学」

⑥15:30~17:30「復興の科学技術」

3

◆修了式

4

復興人材育成教育コース(第2期生) 募集

受講料
無料

どなたでも参加OK

平成24年度

復興人材育成教育コース

復興大学公開講座

平成25年
2/9(土)

会場 TKPガーデンシティ仙台
(アエル21階・ホールA1)

13:00~15:00 「復興の政治学」
復興はなぜ遅いのか

講師 井上 義比古 (東北学院大学法学部教授)

15:30~17:30 「復興の経済学」
復興、防災、減災
— 私たちに今できること —

講師 佐藤 公敏 (日本ヒートアイランド学会理事)

平成25年
2/16(土)

会場 TKPガーデンシティ仙台
(アエル21階・ホールA1)

13:00~15:00
「復興のための生活構築学」
いのちを救う

— 災害時における医療者と非医療者の
役割、連携のあり方 —

講師 大河原 雄一 (東北薬科大学保健管理センター教授)

15:30~17:30 「復興の思想」
近世東北の災害・飢饉史

— 人々は災害にどう向き合ってきたか —

講師 菊池 勇夫 (宮城学院女子大学芸学部教授)

平成25年
2/23(土)

会場 TKP仙台カンファレンスセンター
(ソララガーデン・オフィス2階・2A)

13:00~15:00 「復興の社会学」

災害・復興ボランティアのマネジメント論
— 阪神淡路大震災・東日本大震災から見えてくるもの —

講師 丸山 弘志 (ボランティア山形副代表)

15:30~17:30 「復興の科学技術」

防災と地震予知 — 地震工学の視点から —

講師 神山 真 (東北工業大学名誉教授)

定員100名[先着]
当日参加可(若干名)

申込先・問い合わせ
HP、郵送、FAXまたはEメールに講座名、氏名、住所、電話番号を記入して
開催日の1週間前までにお申込みください。

復興大学・復興人材育成教育コース事務担当 東北大学 教育・学生支援部教務課
〒980-8576 仙台市青葉区川内41 TEL 022-795-4933 FAX 022-795-7555
Eメール kokaikoza@fukko-daigaku-jinzai.jp

詳しくは 復興大学教育コース

検索

<http://www.fukko-daigaku-jinzai.jp/>



平成23年度 文部科学省「大学等における地域復興のためのセンター的機能整備事業」採択事業

被災地の復興には長期間が必要と言われる現在、復興に向けた大学の役割に大きな期待が寄せられています。その期待に応えるべく、復興大学では復興のリーダーとして活躍できる人材を育成することを目標とした現役大学生対象の復興人材育成教育コースを本年度開講いたしました。
 この度、一般のみならずにも復興人材育成教育コース全6科目（「復興の政治学」、「復興の経済学」、「復興の社会学」、「復興の思想」、「復興のための生活構築学」および「復興の科学技術」）のエッセンスを取り入れた「復興大学公開講座」を開講することになりました。
 みなさまには複数の講座を聴講していただき、震災からの復興への意識をさらに高める機会になれば幸いです。
 なお、昨年度は、学都仙台コンソーシアムの加盟機関がそれぞれの専門性や特色を活かし独自の視点で「市民公開講座・講座仙台学」として8講義を開講し、延べ346名にご参加いただきました。

13:00~15:00 「復興の政治学」



講師
井上 義比古
 東北学院大学
 法学部教授

復興はなぜ遅いのか

東日本大震災後の日本において、国民の大多数が「復興が遅すぎる」と感じる背景には、大きく分けて、①政策上の誤り、制度運用の矛盾などの、避けられたはずの要因、②「ねじれ国会」、被害の規模、民主的手続などの、避けがたい要因、③一定の状況に対するわれわれの感じ方、報道の仕方などの、主観的な要因、があると考えられる。「復興が遅い」ということが私たちの認識枠組みの中でどのような意味を持っているのかについて、①～③の諸要因の相互関係を概観しながら総合的に検討し、復興促進を考えるための示唆を得たい。

平成25年
 2/9 土

15:30~17:30 「復興の経済学」



講師
佐藤 公敏
 日本ヒートアイランド学会
 理事

復興、防災、減災
 — 私たちに今できること —

東日本大震災を契機として、私たちの復興、防災、減災の意識がこれまでになく高まりました。経済学も今、復興のために貢献すべきことは明らかです。《経済》とは「経世済民」または「経国済民」の略で、「国または世を治め、人民を救うこと」という意味です。本講座では、経済学の考え方と、被災地の復興を進めるために、私たちに今何ができるのか、私たちが今何をすべきかのヒントを提供したいと思います。また、現在、日本中で新たな震災が迫る中、多様な【災】に対して、私たちがどのようにリスクを避けるべきか、防災ならびに減災のための対策を、共に皆さんと考えていきたいと思っています。できることがありましたら、実行なさってみてください。

13:00~15:00 「復興のための生活構築学」



講師
大河原 雄一
 東北薬科大学
 保健管理センター教授

いのちを救う

— 災害時における医療者と非医療者の役割、連携のあり方 —
 今回の東日本大震災のような未曾有の大災害を経験した私たちは、今後起こり得る災害に対して、可能な限り対応ができる体制を整える必要性を再認識させられました。特に、瞬時に大量の負傷者や発病者が発生した場合、限られた場所・施設・人員で迅速に、しかも適切な対応が医療者のみならず私たち一般地域住民にも求められます。現在、医療機関や地域自治体を中心となって災害時でも対応できる医療連携システムの構築を進めています。本講座では、その内容を紹介するとともに、私たち地域住民はどのような意識のもとに行動し、医療機関や地域自治体と連携すべきかを考えてみたいと思います。

平成25年
 2/16 土

15:30~17:30 「復興の思想」



講師
菊池 勇夫
 宮城学院女子大学
 学芸学部教授

近世東北の災害・飢饉史

— 人々は災害にどう向き合ってきたか —
 江戸時代の東北地方はどのような災害に遭っていたのでしょうか。そのことをまず概観しながら、とくに被害が大きかった凶作・飢饉を取り上げて、人々がそれをどのように受け止め対処しようとしてきたのか、歴史学の立場から述べてみようと思います。歴史の記憶遺産として、東北地方には数多くの飢饉の記録や餓死供養塔が残されています。そこには「非常」の体験がリアルに物語られているだけでなく、災害・飢饉観や、防災、復興の思想が説かれています。そうした近世人からのメッセージを、天災の要素があるにしても、できるだけ被害を少なくするために、私たちは今にどのように生かしていっていったらよいのか、考えてみましょう。

13:00~15:00 「復興の社会学」



講師
丸山 弘志
 ボランティア山形
 副代表

災害・復興ボランティアのマネジメント論
 — 阪神淡路大震災・東日本大震災から見えてくるもの —

①ボランティア山形がこれまでに展開してきた、阪神淡路大震災や東日本大震災などの被災者支援活動の実際とノウハウを紹介しながら、大災害に遭遇したとき、個人、家族、団体、行政、国家は限られた時間の中でどのような意思決定をし、どのような行動をしたのかを考察していく。また、今後の復興のために必要なものは何なのかを受講者と共に考えていきたい。
 ②災害・復興ボランティアを経験した中からボランティアの組織論、コミュニケーション論を展開し、平時とは異なる状況の中での組織マネジメントとは何かを考える。
 参考文献：ボランティア山形著「市民の力で東北復興」（ほんの木、2012年）

平成25年
 2/23 土

15:30~17:30 「復興の科学技術」



講師
神山 眞
 東北工業大学
 名誉教授

防災と地震予知
 — 地震工学の視点から —

東日本大震災を受けて地震予知否定論が喧しい。一方では、東北地方太平洋沖地震のような巨大地震では“耐える”対策・対応には限界があり、“免れる”ことや“避ける”、“逃げる”ことを意識した対策・対応の必要性も明らかである。その観点から地震予知は防災・減災策の有効な方法であることに変わりはない。ここでは、ハード、ソフトの観点から地震防災・減災対策を整理して、その一つとしての地震予知について工学の視点から再考する。特に、3.11巨大地震で予知に資すると考えられる予兆現象が全くなかったのかをGPSによる地殻変動のデータを再整理して議論する。